





重点分野2 (中目標)	人道支援、社会開発、平和構築の連携を通じた貧困削減と格差是正											
開発課題2-1 (小目標) 貧困削減と格差縮小に資する人道支援、社会開発、平和構築	<b>【現状と課題】</b> ・カメルーンは国家開発戦略「カメルーン長期開発ビジョン2035」に基づき、貧困削減及び格差是正に資する社会開発を進めているものの、貧困率は依然として高い水準にあり、地域間格差も増大している。 ・国内に多くの難民・国内避難民を抱えており、受入れ地域で急増する食料、教育、保健、水、衛生分野等のニーズへの対応が課題である。 ・貧困削減及び地域格差是正のため、食料、教育、保健、水分野等の基礎的社会サービスの整備・拡充が課題である。					<b>【開発課題への対応方針】</b> ・国際機関とも連携しつつ、難民及び国内避難民の受け入れに伴うホストコミュニティ支援に資する協力を実施する。 ・無償資金協力による施設整備、研修事業を通じた人材育成等を通じ、教育及び保健、水分野等の基礎的社会サービスの質の向上を目指す。						
	協力プログラム名	案件名	スキーム	実施期間					支援額 (億円)	SDGs	備考	
		保健・衛生支援分野のJICA海外協力隊	JOCV	2024年度以前	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度		3	
		ガバナンス平和構築及び教育分野の研修	課題別研修他								3,4,11	
		SDGsグローバルリーダー	課題別研修他								4	
		教育支援分野のJICA海外協力隊	JOCV								3,4,5	
		第二次南西州における保健センター及び給水所の改修を通じた復興計画	無償							3	3,6	UNDP
		食糧援助(WFP連携)	食糧援助							4	2	WFP
		教育分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力	草の根無償								4	
		人道分野の無償資金協力	マルチ							4.25百万米ドル	2,3,5,6,11	
	保健・医療関連機材のための無償資金協力(経済社会開発計画)	無償							3	3		
	中西部アフリカ地域国際金融犯罪対処能力強化	第三国研修								16		

【凡例】 「協準」(=全ての協力準備調査)、「詳細設計」(=詳細設計)、「技プロ」(=技術協力プロジェクト)、「開発計画」(=開発計画調査型技術協力)、「個別専門家」、「個別機材」、「個別研修」、「課題別研修他」(=課題別研修及び青年研修)、「JOCV」(=JICA海外協力隊)、「第三国専門家」、「第三国研修」、「現地国内研修」、「科学技術」(=科学技術協力(技プロ型及び個別専門家型))、「草の根技協」(=草の根技術協力)、「〇〇省技協」(=外務省・JICA以外の省庁及び独立行政法人等が実施している技術協力)、「民間提案型技協」(=開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業)、「無償」(=以下に特記するサブ・スキームを除く全ての無償資金協力)、「水産無償」(=水産無償資金協力)、「食糧援助」(=食糧援助)、「一般文化」(=一般文化無償資金協力)、「草の根文化」(=草の根文化無償資金協力)、「緊急無償」(=緊急無償資金協力)、「日本NGO」(=日本NGO連携無償資金協力)、「草の根無償」(=草の根・人間の安全保障無償資金協力)、「有償」(=円借款・海外投融資)、「情報収集調査」(=基礎情報収集・確認調査)、「マルチ」(=国際機関等を通じた多国間協カスキーム)、「基礎調査」(=中小企業・SDGsビジネス支援事業「基礎調査」)、「案件化調査」(=中小企業・SDGsビジネス支援事業「案件化調査」)、「普及・実証・ビジネス化事業」(=中小企業・SDGsビジネス支援事業「普及・実証・ビジネス化事業」)、「実証」(=実施期間)、「破線」(=実施予定期間) ※この凡例にない略語を使用する場合は凡例に当概略語を記載したうえで使用する。

【SDGsゴールの説明】1「貧困」、2「飢餓」、3「保健」、4「教育」、5「ジェンダー」、6「水・衛生」、7「エネルギー」、8「経済成長と雇用」、9「インフラ、産業化、イノベーション」、10「不平等」、11「持続可能な都市」、12「持続可能な消費と生産」、13「気候変動」14「海洋資源」、15「陸上資源」、16「平和」、17「実施手段」

【SDGsの詳細】 [https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs\\_pamphlet.pdf](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_pamphlet.pdf)